

青谷町総合支所「鳥取市新地域振興ビジョン」推進計画 進捗チェック状況

項目名	事業概要	目標 【基本計画・施策】	推進期間			短期(～29年度)における総括		30年度				備考	担当課				
			短期	中期	長期	成果(何をどれだけ)	次年度以降への課題・方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度			事業の 方向性			
			～29年度	～31年度	～35年度												
①地域コミュニティの増進、活力のあるまちづくり	①青谷地区を中心としたコンパクトなまちづくりを進め、憩いや賑わいの空間を創出する。	地域生活拠点の整備 【生活基盤の充実】 【工業の振興】	○青谷憩いの場整備等	○青谷憩いの場整備等		広場測量設計を完了。 旧公民館及び講堂の解体撤去を完了。	公園又は、コミュニティ広場として利用するの検討が必要。 広場の維持管理について検討する必要がある。	152,885					H30年度で整備完了予定	都市企画課 青谷町総合支所			
			○JR駅前広場周辺整備等	○JR駅前広場周辺整備等		・広場測量設計業務を完了。 ・バス待合所建築設計を完了。 ・駐在所の解体撤去を完了。	バス待合所の有効的な活用を検討する必要がある。								・JR青谷駅前広場整備事業工事中 1400㎡ ・JR青谷駅前バス待合所整備事業工事中	H30年度で整備完了予定	都市企画課 青谷町総合支所
			○企業誘致	○企業誘致	○企業誘致	西部地域三町で候補地をピックアップし、工業団地造成における諸課題に対する関係課の意見聴取を行いながら、候補地を検討している。企業立地・支援課と連携し、企業誘致に努めている。	西部三町で工業団地設置における諸課題を検討し、候補地の検討に努める。								西部三町で工業団地設置における諸課題を検討し、候補地の検討に努める。		
	②全体的に人口が減少し高齢化が進む状況の中、各地区公民館は地区の特性を活かした事業に取り組んでいく。	地域活性化イベントの再構築	○鳥取市西いなば地域振興 グランドデザインとの連携 ○地域活性化イベントの再考・定着	○地域活性化イベントの再考・定着	○青谷町外からの集客を目指すイベントの定着	因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭 ・和紙イベントをとおして因州和紙をPRし、地区住民あがての日置地区の農産物販売や食のバザー等で和紙産地の魅力を発信した。	因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭 ・因州和紙は、地域の地場産業であるとともに、鳥取県を代表する伝統工芸品であることから、いかにその魅力を発信し、集客するか、企画内容、PR方法を検討する必要がある。	伝統産業である因州和紙の産地強化と青谷町の賑わい創出を目的としたイベントを開催 因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭を開催 11/11 来場者1,000人	2,850						青谷町総合支所		
	地域コミュニティの充実 【協働のまちづくりの推進】	○各地区のまちづくりリーダーの発掘 ○各地区のまちづくりリーダーの育成 ○各地区公民館周辺整備検討	○各地区のまちづくりリーダーの育成 ○各地区公民館周辺整備検討	○まちづくりリーダーの発掘・育成 ○まちづくり団体の育成	青谷ようこそ市場 ・青谷ようこそ市場は、支所が事務局となっており、参加団体の認識が低かったが、H29年度より各回の担当団体を決め、自主性を高める試みを実施。一定の効果があったと判断。 ・1年目のH28年度より2年目のH29年度は来場者増。	青谷ようこそ市場 ・イベント客は、町内者が占める割合が多く、町外からの集客を促す工夫が必要。 ・将来的には、一定規模の自主財源を確保する工夫も必要と考える。 ・支所に代わり、中心的役割を果たす自主団体の育成を図りたい。	・青谷ようこそ市場を4回開催。 6/3 ようこそ館前広場 800人 7/1 夏泊漁港 1,000人 8/5 ちちべ伝承館(伝承館祭りと共催)800人 9/2 青谷町総合支所周辺(青谷上寺地遺跡まつり1,000人(※10/7は中止)) 11/24 あおいちウォーキング「山陰道ウォーキング」開催予定 12/15イルミネーション点灯式開催予定										
	③青谷高等学校は、特色のある取り組みや地域との繋がりが強化に取り組む。	①「卓球のまち青谷」の復活 ②国際交流事業の継続・拡大 ③保育所、小中高との連携強化 【教育の充実・郷土愛の醸成】 【スポーツ・レクリエーションの振興】	○青谷高等学校活性化に向けた組織立ち上げ ○「卓球のまち青谷」復活に向けて町民の意識改革・卓球教室・卓球大会の開催 ○各種イベント等への参画 ○留学生の受け入れ ○人材育成(通訳等) ○郷土愛を育む事業(青谷再発見、子どもガイド養成) ○国際交流イベントの推進	○郷土愛を育む事業(青谷再発見、子どもガイド養成) ○郷土愛を育む事業(青谷再発見、子どもガイド養成) ○国際交流イベントの推進	○郷土愛を育む事業 ・青谷高等学校の青谷学への事業協力 ・小・中・高校生のイベント等への参画	①「卓球のまち青谷」の復活 ・卓球教室・青谷オープン卓球などを通して一定の成果があったものとする。 ②国際交流事業 ・交流先の自治体の考えにも影響され、中国太倉市との交流は縮小状況。 ・青谷高等学校も交流先を韓国居昌中央高等学校と限定し、国際交流事業は縮小傾向。 ③保育園、小中高との連携強化 ・地域創造学校等の取り組みで保育園、小中の連携が図られた。 ・青谷高等学校の活性化を支援する会が平成29年度結成されたことにより今後の地域との連携が期待できる。	①「卓球のまち青谷」の復活 ・今後も事業継続するが、住民への啓発を模索する。 ②国際交流事業 ・合併後、取り巻く環境が変化し、状況に応じた取り組み方向性の検討を要する。 ③保育園、小中高との連携強化 ・連携は図られている。 ・青谷高等学校については、支援する会を通じ、より地域と連携し、青谷高等学校の独自性を高める取り組みに協力していく。	①「卓球のまち青谷」の復活 ・青谷高校卓球部員による第4回卓球教室は中止 ・第4回青谷オープン卓球を開催(11/10,11) 男子11チーム、女子9チーム参加 ②国際交流事業 ・韓国居昌中央高等学校と青谷高等学校との学校間交流を実施。 ・国際交流協会による交流事業の実施 ③保育園、小中高との連携強化 ・地域創造学校等の取り組み継続 ・青谷高等学校の活性化を支援する会の活動強化 ④青谷高等学校の青谷学への協力 青谷学講師等の紹介 青谷地域賑わい創出実行委員会と連携し、青谷学への支援 商工会地活部会と連携した青谷学ボランティア用オリジナルTシャツ作成	400							青谷町総合支所	
②地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり	歴史的資源・自然的資源・農産物を含む地場産業・文化的資源などを道の駅を核として有効活用した取り組みを進めることが、中山間地域対策に重要であり、住民が誇れるまち・魅力あるまちをめざし交流人口の拡大を図る。	○地場産業の現状把握 ○特産品の販路拡大 ○担い手育成と後継者の確保 ○夏泊朝市の実施・地域の活性化・交流人口の拡大	○地場産業の現状把握 ○特産品の販路拡大 ○担い手育成と後継者の確保 ○夏泊朝市の実施・地域の活性化・交流人口の拡大	○地場産業の現状把握 ○特産品の販路拡大 ○担い手育成と後継者の確保 ○夏泊朝市の実施・地域の活性化・交流人口の拡大	市民活動を通じ、特産物の販売及びふるさと納税商品などへ販路拡大をPR。 ダイハツ工業生活協同組合との特産物の販売、取引を行った。 就農舎を中心とした担い手育成。現在、研修生2名が就農の研修中。H30年度に経営継承で就農予定。就農について関係機関の協力により育成指導中。 例年に比べ時化等の影響もあり漁の回数は減ったが昨年並みの実績があった。	市民活動を通じさらなる特産物の販売及びふるさと納税商品などへ販路拡大をPR。 ダイハツ工業生活協同組合との特産物の販売、取引も引き続き行っていく。 就農舎を中心とした担い手育成。現在、2名が就農の研修を終え、経営継承等で就農。1名が研修中。関係機関の協力で育成指導を行っている。 町内外の人への定置網漁及び朝市の認知度を上げる必要がある。	市民活動を通じ特産物の販売及びふるさと納税商品などへ販路拡大をPR。 池田市民カーニバル(農業公社、支所)(8/25) 池田市商業祭(公社、支所)(10/27,28) 池田市農業祭(11/17,18) (公社、農業者) 池田市ふるさと納税の謝礼品に利用 池田ダイハツ工業生活協同組合への特産物販売	100							経済・雇用戦略家 農業振興課 青谷町総合支所		
		○夏泊朝市の実施・地域の活性化・交流人口の拡大	○夏泊朝市の実施・地域の活性化・交流人口の拡大	○夏泊朝市の実施・地域の活性化・交流人口の拡大			夏泊朝市の開催とあおいちとの連携(7/1) 夏泊定置網教室の開催(7/1)							林務水産課 青谷町総合支所			

青谷町総合支所「鳥取市新市域振興ビジョン」推進計画 進捗チェック状況

項目名	事業概要	目標 【基本計画・施策】	推進期間			短期(～29年度)における総括		30年度				備考	担当課		
			短期	中期	長期	成果(何をどれだけ)	次年度以降への課題・方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度			事業の 方向性	
			～29年度	～31年度	～35年度										
		○ジオ関連ガイドの養成 ○ガイド団体の設立 ○青谷上寺地遺跡保存管理計画・整備活用基本計画に基づいた整備 ○青谷上寺地史跡公園の運営協力団体の育成 【文化財の整備・保存・活用】 【滞在型観光の推進】 ○情報板等の検討・整備 ○地域の歴史認識、地域への愛着を深めるための修景の検討・整備	○ジオ関連ガイドの養成	○ガイド団体の設立	○ガイド団体の設立	・ガイド団体の設立はできた。	・単発事業のみでなく、新規ガイド養成に繋げる必要がある。	青谷町ガイドネットワークがボランティアガイドとして活動中						鳥取砂丘・ジオパーク推進課 青谷町総合支所	
			○青谷上寺地遺跡保存管理計画・整備活用基本計画に基づいた整備	○青谷上寺地遺跡保存管理計画・整備活用基本計画に基づいた整備 ○青谷上寺地史跡公園の運営協力団体の育成	○青谷上寺地遺跡保存管理計画・整備活用基本計画に基づいた整備 ○青谷上寺地史跡公園の運営協力団体の設立	青谷上寺地遺跡保存活用協議会への支援が主な活動であったが、活動内容が固定化し、参加者や協力者が増える状況ではなかった。	史跡公園整備が431年度から開始されるのにあたり、既存団体の青谷上寺地遺跡を守る会以外の新たな協力者の参画を図る必要がある。	○青谷上寺地遺跡整備事業:文化財課 ○青谷上寺地遺跡保存活用協議会への支援 ○青谷上寺地活性化事業 上寺地ものづくり講座(ガラス細工・木工教室)8/18 参加者18名 ボランティア養成講座開催予定	5225 197					文化財課 青谷町総合支所	
			○情報板等の検討・整備 ○地域の歴史認識、地域への愛着を深めるための修景の検討・整備	○地域の歴史認識、地域への愛着を深めるための修景の検討・整備		JR青谷駅前整備に合わせ、観光案内板等の設置を検討した。	JR青谷駅前広場整備事業30年度に伴い、JR青谷駅前観光案内版の移設整備を行う。	JR青谷駅前観光案内版の撤去済み 新たに観光案内版を設置予定。観光戦略課						平成30年度事業完了 予定	
			○情報板等の検討・整備 ○地域の歴史認識、地域への愛着を深めるための修景の検討・整備	○地域の歴史認識、地域への愛着を深めるための修景の検討・整備		こばしまウォーキングは、地域の歴史認識を深めるというより、ウォーキングに重点を置いた内容であり、近年のウォーキングブームもあり参加者は多い。青谷町を知っていただく効果ありと判断している。再発見ツアーは、小学生の参加者が大部分を占めている。	青谷再発見ツアーの内容の見直しを検討し、町内ガイド養成を兼ねる内容とした。	・こばしまウォーキング11/3の実施 「心やすらぐ田園コース」(日置谷地区内)参加者100人 ・「北前船寄港地日本遺産登録記念」青谷ふるさと探訪10/27実施 参加者17人	(0)						文化財課 青谷町総合支所
			○自主防災組織の体制整備・連携	○自主防災組織の体制整備・連携	○自主防災組織の体制整備・連携	・自主防災組織の資機材整備補助事業を活用して資機材の充実を図ることができた。 ・訓練実施の自主防災組織数が増えた。	訓練を実施している自主防災組織は多いが、ほぼ消火訓練であり、地震や水害の場合に対応した訓練実施も図りたい。	・自主防災組織の訓練促進 ・鳥取市自主防災会地域防災力強化補助金等の周知と利活用推進 ・自主防災組織へ避難訓練内容の提示及び派遣 ・鳥取市防災訓練(青谷会場)9/11は中止	(0)						危機管理課 青谷町総合支所
③安心・安全なまちづくり	各集落の自助・共助による推進で「地域を自ら守る」取り組みを図る。	自主防災組織の充実と連携 【地域防災力の向上】 避難行動要支援者支援制度への登録啓発(新規登録、追加登録の促進) 【地域包括ケアの推進】 ひとり暮らしの高齢者世帯へ「安心ホットライン」設置啓発 高齢者・障がい者等を地域で見守り支え合うネットワークづくり	○制度の啓発及び地域との連携	○制度の啓発と本事業における地域の役割について地域の理解を深める。	○制度の啓発と本事業における地域の役割について地域の理解を深める。	登録者数408名	この制度は共助があっても効果を出すものであるが、制度内容が必ずしも理解されていない。制度内容の理解促進が急務。	制度内容の理解と登録の促進 ・各地区座談会 ・青谷町自治連合会研修会 ・民生児童委員会 ・いきいきサロン(2)					危機管理課 地域福祉課 青谷町総合支所		
			○地域と連携しつつ、避難行動要支援制度と合わせて本事業の周知を図る。	○地域と連携しつつ、避難行動要支援制度と合わせて本事業の周知を図る。	○地域と連携しつつ、避難行動要支援制度と合わせて本事業の周知を図る。	利用者数31名	制度について、幅広く周知する。	・青谷町自治連合会研修会で制度の説明を実施。 ・民生委員へ制度説明と担当地区への啓発を依頼。 ・各地区座談会にて制度を周知						危機管理課 長寿社会課 青谷町総合支所	
			○青谷町住民の健康・福祉の現状を地域住民へ伝える。	○青谷町住民の健康・福祉の現状について、地域住民の理解を深め、改善のための気づきを促す。	○青谷町住民の健康・福祉の充実のために、地域住民と協働してできることを話し合う。	・健康教育(グループワーク含む)[6回]を実施し、健康に対する意識づくりを図ることができた。 ・青谷地域振興会議においても、青谷地域の現状を共有し、地域支援の必要性について感じてもらった。	・様々な機会を捉えて、ネットワーク構築のための土壌づくりを促進していく。	・青谷地域の健康・福祉の現状について、健康教育等を実施することにより地域住民の理解を深め、改善のための気づきを促す。 ①青谷地域振興会議における認知症サポーター養成講座の実施 ②災害時における健康維持と日頃の地域の繋がりの必要性等について地区健康教育の実施(いきいきサロン(3)、老人クラブ(1)、青谷小学校全児童) ・民生委員や福祉事業所等との連携						青谷町総合支所 西地域包括支援センター	